

2023年度 ラトビア・湯村カップに参加して！

NPO 法人 国際社会人剣道クラブ
理事長 曾根 孝悦

ラトビア・リガにおいて、2023年6月10日・11日に開催されたバルト三国剣道優勝大会「湯村カップ」に行ってきました。その概要をまとめましたので掲載します。

新型コロナウイルスの蔓延により3年ほど訪問することができないでいましたが、今回は急遽、近畿クラブ所属の前野頼彦先生と二人で出かけていきました。前野先生は、この大会開催の仕掛人ともいふべき功労者で、十数年前から当大会はもちろん、剣道セミナー、他の国との剣道交流を企画し、普及指導などに力を注いでいただきました。当クラブ名誉会長、範士湯村正仁先生が大会の活性化と継続のためにとの思いから、男女それぞれに優勝カップを寄贈し、「湯村カップ」として毎年開催されてきています。

6月7日9時半にリガ空港に降り立った二人は、キンズーリス会長のお出迎いで、いったんはホテルに行き、休む間もなく夕方6時から書道教室、7時からラトビアメンバーの指導強化、活動を開始しました。翌日8日は、夕方の書道教室だけなので、午前中は世界遺産の旧市街地を前野先生と二人で散策しました。午後には会長がバルト海までご案内。のんびりとラトビア観光を満喫しました。9日金曜日には、スウェーデン希望道場のニッセ会長、ポーランドからはインターナショナル女子チームの監督、ビエサのお二人が到着し合流。6時から強化指導、7時からは選手一同が合同で稽古をし、みんな気持ちのいい汗を流しました。

いよいよ大会当日を迎えました。参加は、ラトビア、リトアニア、スウェーデンの3か国、男女合わせて30名弱いうところですが、バルト三国のエストニアは残念なことに剣道を続けている人がいなくなったようです。最盛期には、ポーランド、ロシア、ルーマニア、アルメニアなどなど多くの国から参加したのですが、寂しいものがあります。

開会式には、お忙しい中にもかかわらず、ラトビア共和国日本国大使館から、特命全権大使の加瀬寧氏、書記官の佐藤寛大氏、渡嘉敷泰斗氏が家族連れでお見えになり、心のこもったご祝辞までいただきました。キンズーリス会長挨拶に始まり、私が審判長を務めることとなり、諸注意をして試合開始です。初日は個人戦。小学生の部は二人だけ。女子の部、男子の部と順調に進められ、昼過ぎには終了しました。男子はラトビアが、女子はリトアニアがそれぞれ優勝しました。中身の充実した試合が見ることができ、嬉しい思いでした。また、試合会場の設営、審判の所作、判定、大会運営等々、自らの手で円滑に進められており、その成長ぶりに驚きです。ランチ休憩の後はみんな参加しての稽古。試合の後でも疲れも見せず、よく頑張っていました。

11日曜日は10時開始の団体戦。男女混合の三人制で行われました。リトアニアが優勝。スウェーデンの善戦も特筆に値するものがありました。大会終了後は、振り返りの指導をして、総仕上げの稽古です。二日間の試合の疲れも見せずに、最後の最後まで一生懸命に掛かってくる姿は感動すら覚えるものでした。

しばらくぶりの訪問ではありましたが、みんなが力を合わせ、心を一つに手づくりの「湯村カップ」を見事に終了させたことに改めて敬意と感謝を表したいと思います。

円安で飛行機代は高騰、ウクライナ紛争でロシア上空は飛ばず、13時間エコノミーで我慢、後期高齢者の二人旅はかなり厳しいものがありました。それでも、こんな苦勞など吹き飛ばしてくれる、剣友たちの笑顔と真剣味、参加選手の皆さん、関係した皆さん、すべてに感謝申し上げ「湯村カップ」の訪問記といたします。













